

地域と企業の未来を見つ

める情報誌

HRI REPORT

Hyakugo Research Institute

百五経営情報クラブ

ISSN 0914-0387

July 2017
No.165

7

特集：

誰でも一日24時間。

皆で考える働き方改革

トピックス

三重県におけるMICE戦略

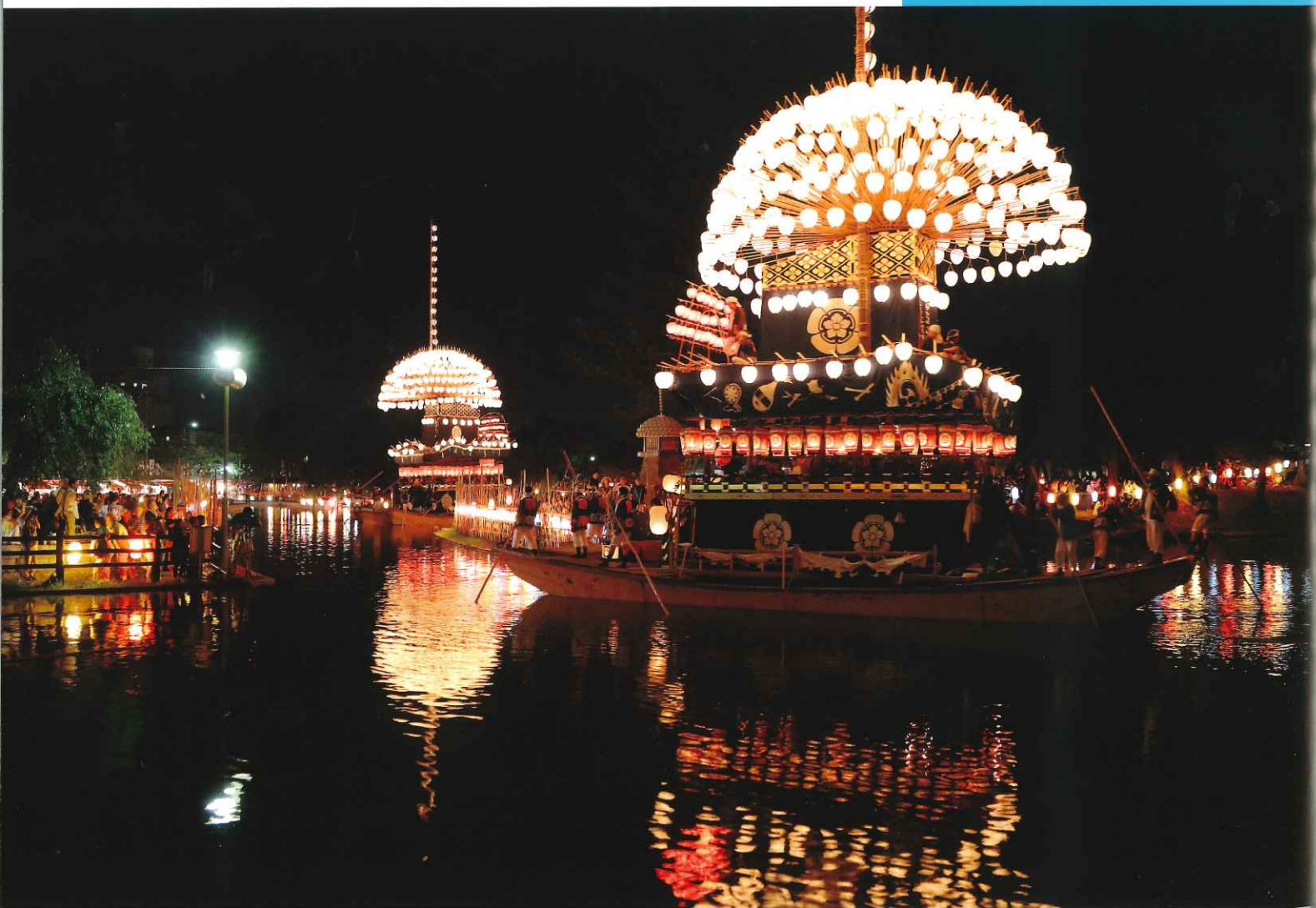
百五銀行 地域創生部 M&A事例紹介

企業紹介

カメヤマ株式会社

宇野重工株式会社

Photo / 「尾張津島天王祭」



CASE 2



株式会社中田商事



所在地：伊賀市荒木野々浦893-1
TEL：0595-26-3535
FAX：0595-26-3536
創業：1995年(平成7年)
設立：2000年(平成12年)
資本金：800万円
従業員数：60名(2017年4月現在)
事業内容：一般貨物運送事業、一般貨物取扱事業、倉庫業、
産業廃棄物収集運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業、
特定労働者派遣事業、自動車整備事業(中部運輸局認定工場)、
古物売買並びにその受託販売、軽貨物自動車運送業

URL：http://www.nakata-shoji.co.jp

株式会社中田商事は、一般貨物運送事業を中心に倉庫業、特定労働者派遣事業などを展開する会社で、ドライバーの完全時給制、ITによる車両運行管理など、革新的な経営で注目されている。近年、同社はトラックドライバーを含む女性従業員の数が増えている。その理由を探った。

柔軟な仕事受注、
多様な就業形態

「運送業界は少ないパイ(ベテ

ランドライバー)の取り合いをし
ている」と中田社長はいう。トラ
ックドライバー不足の昨今、即戦
力となるベテランドライバーは貴
重だ。しかし、彼らはさらに稼げ
る職場を求めて移っていく。一方
で就業にハンデがあり、職が決ま
らず困っている人々が多く存在
する。結婚、出産、育児などによ
つて就業、職場復帰が難しくな
る女性、介護や病気で働き方の
見直しを迫られる人々だ。

運送業は怖い？



代表取締役社長 中田 純一氏

「運送業には怖いイメージがあ
るでしょう」。開口一番、中田社長
の言葉である。強面の男性が大
型トラックを乗り回し、一部では
荒々しい運転も目立つ。映画な
どで描かれるドライバー像も重
なつてか、現場を知らない人が先
入観を持ち、敬遠しがちな業種
であることは確かだ。しかし、そ
の業界において、中田商事は女性
従業員の比率が2割と比較的
高い。その理由は、中田社長が推
し進める従来の業界イメージを
覆す取り組みにある。

また、伊賀本社営業所近くに
従業員のための保育所設置を予
定しており、ここでも新たに女
性の雇用を生み出す。保育士資
格を持つ女性が、午前は保育業

このような人々を同社は積極
的に採用している。育休制度を
活用したり、仕事の受注を工夫
したりと、予想されるリスクを
分散することに同社は力を入れ
ている。最近、大手宅配企業で再
配達業務がドライバーに過重な
負担をかけるとして、サービスが
見直されつつあるが、中田商事は
その業務を受注し、短時間勤務
のドライバーに任せる取り組み
を始めた。

マンツーマン教育で
従業員の定着率上昇

務、午後は小型貨物車を使った
運送業務に従事する働き方も
可能にする。「このような柔軟な
取り組みができるからこそ、我
が社の強み」と中田社長は言い
切る。

中田商事は、他業種からの転
職者や新卒など未経験者も多
い。「以前は、採用しても辞める
人が多かったのですが」と同社人
事担当の藪中一真主任が明か
す。2010年に同社が歩合制
から完全時給制に移行すると、
高収入を求めるドライバーは
次々職場を去っていった。その後、
高給よりも安心して働ける職
場を求める人たちが集まり始
め、女性や未経験者の割合が増
えていった。同社では入社後、先
輩社員からマンツーマンで指導を
受ける教育期間が設けられてい
る。「未経験者がノウハウをしつ
かり学び、長く働いてくれるよ
うになりました」と藪中主任は
教育の効果を挙げる。

指導するベテランドライバーの

意識も変化した。「人の背中を見て学べ」が当たり前の職場に自分の娘のような女性ドライバーが入ってきた。懸命にトラックのハンドルをさばき、重い荷を降ろす彼女の姿は、ベテランドライバーの中に「育てる」意識を生んだ。従業員同士の交流も以前より深まったという。

蓄積データから未来を予測

情報管理室は、ITによる効率的な業務管理をおこなう部署である。デジタルタコメーターを全車に導入し、車両の回転率、積載効率、空車率のほか、運転中の急加速、アイドリング、車両のふらつき、休憩をとらない連続乗車など、事務所内のパソコンで随時確認をおこなっている。安全運転やエコ運転に努めれば、その分が時間給に加算されるため、ドライバーの意識が向上し、事故や燃料の消費が減ったという。「ほとんどのドライバーが(1000点中)99点台と優秀な成績です」と、中田社長や藤森純子室長が笑顔を見せる。

とはいえ、ITによる業務の見

える化自体は特別なことではない。「大切なのは日々のデータを蓄積し、そこから予測を立てること」と中田社長。客観的データや数値は荷主との価格交渉時にも役立つという。

意識を変えれば、働き方が変わる

今年3月、同社は『汚してもいい作業着から汚したくないユニフォームへ』をコンセプトにユニフォームを一新した。すると、従業員がユニフォームを大切に扱うようになり、さらに髪まで整えるようになった。「意識改革」と力まずとも、少しの工夫が意識を変えた好例である。

話を聞く中で、「仕事がきつからトラックを購入するのではなく、荷台の空きを埋めるにはどういう仕事を作ればいいのかを考える」という中田社長の言葉が心に残った。先入観、固定イメージ、既成概念、それらが本当に正しいか、もう一度見直す必要があるかもしれない。

文Ⅱ 会員事業部 鈴木理可

輝く! 女性トラックドライバーさんインタビュー

中田商事でトラックドライバーとして勤務する岩本穂花さん。小学校から高校まで男子チームに混じってサッカー漬けの日々を送っていた彼女の夢は、JFAサッカー審判員1級資格を取り、国際舞台で審判をすること。そんな岩本さんに今の仕事についてお聞きしました。



岩本穂花さん

—単刀直入ですが、なぜトラックドライバーになろうと思ったのですか。

中田社長の運営するサッカーチームが出場した大会の審判を私が担当していて、そこで社長からお声がかかったんです。

—グラウンドで?!

はい!サッカー大会は土日で開催されることが多いため、土日休みの仕事を探していて、社長にその話をしたところ、グラウンドで即、面接が始まりました(笑)

—現在の仕事内容を教えてください。

2トン冷蔵冷凍車で食品を配送しています。朝7時前に会社を出発して卸問屋で商品を積み込み、配

送先の店舗をまわっています。以前は、「たべねっとみえ」の仕事を担当していて、伊賀の野菜を尾鷲に、尾鷲の魚を伊賀に届けていました。

—積み降ろしは一人ですか。

もちろんです! 連休前は配送量がとても多く、重くて大変です。

—仕事にはすぐ慣れましたか。

いえいえ。最初は先輩の車の後について仕事を教わるのですが、車の運転に慣れなくてエンストばかり起こしていました。

—仕事でうれしいこと、やりがいを感じることはありますか。

配送先のお客様に「ありがとう」と言ってもらえることです。人と話をするのが好きなので。そういうところは女性に向いている仕事だと思います。

—ズバリ!今の仕事は好きですか。

大変なこともたくさんありましたが…それを乗り越えた今は「好き」です!

—ありがとうございます。これからもがんばってください!



配送トラックの整備